・コーディネーター：原利明

登壇者：

・杉崎きみの（デマント・ジャパン株式会社）

・中村豊四郎（アール・イー・アイ）

・平井百香（東北大学）

・武者　圭（サウンドスケープデザイナー）

＜要旨＞

本委員会はこれまでひとと空間の関係性から、誰もが暮らしやすいまちづくりの在り方を検討してきた。昨年10月にはその活動をまとめた書籍の出版も行った。

一方で、近年では、生活のあらゆる場面で先端技術を駆使した情報提供システムと関わる機会が増えてきた。情報と空間の関係の中で取りあげられる視点は、ICTを媒介としたスマートシティやナビゲーションシステム、さらにはVR、ARなどの技術に重きが置かれる傾向にあるように思われる。実際に我々の日常生活を見直すと、スマートフォンなどの端末でICTから情報を検索し、移動・行動もその指示に従っているのではないだろうか。

しかし、我々は生まれてから寝返りのように転がることで身体の近辺の情報を取得することから始まり、這い、つかまり立ちしてからは２足歩行で近場を移動することで情報取得の範囲を広げていく。年齢とともに遠くへ移動し、乗り物などにより距離が拡張されるとともに、さらに多くの情報を取得するようになっていく。このように考えると、ひとはその行動範囲を広げていく中で徐々に多くの情報を取得し、その取得方法も経験の中から体得してきたのではないだろうか。

情報技術が加速的に進む中、真の「豊かさ」とは何であろうか？改めてひとと情報の関係性から、参加者とともに考えたい。